

単元名 地域防災フィールドワークと防災新聞の作成

【単元の概要】

本校では毎年11月を防災月間とし、校区内の諸団体と協働しての総合防災訓練を実施している。この総合防災訓練を柱にしながら9年間を見通した計画的な防災学習を実施している。

本単元は、中学生としての学習のスタートとして、地域の各方の協力を得ながら校区内の危険箇所を調査し「防災新聞」という形にまとめ校内・地域へ発信していく活動で、総合防災訓練につながっている。（3年間の防災学習の導入に位置付けている）

学習指導要領の領域・内容

地域や学校の特色に応じた課題

他教科との関連

国語 社会 理科 技術 道徳
(家庭)

【考え・基礎知識】

- ・ 防災の必要性和意味について理解することができる。
- ・ 地形図とハザードマップを照らし合わせて危険箇所の特徴を理解できる。

【つながり】

危険箇所の把握と安全な避難経路を把握し、災害時に対応できる力を身につけることができる。

【応用・ひろがり】

理解したことをまとめて発表し、地域に貢献することができる。

1 単元設定の理由

(1) 探究課題について

本校では毎年11月を本校の防災月間とし、校区内の諸団体と協働しての総合防災訓練を実施している。この総合防災訓練を柱にしながら3年間を見通した計画的な防災学習を実施している。

本単元は、中学校3年間の防災学習の導入に位置付けており、地域の皆さんの力をお借りしながら校区内の危険箇所を調査し「防災新聞」という形にまとめ校内・地域へ発信していく活動である。

(2) 生徒について

本学年の生徒は小学校から防災に関する学習を積み重ねてきた。本中学校区の小中一貫教育の育成すべき資質・能力である、「思考力・判断力・表現力、協働的な態度」は生徒の意識調査アンケートにおいて次の表の通りであった。

表（各項目4点中）

	思考力・判断力	表現力	協働的な態度
7月	2.91	3.02	3.16

「知識・技能」は、社会科を例に挙げれば、定期試験において平均点が72.8%、応用力を問う問題（広島県公立高等学校入試問題に準ずる問題）に関しては64.7%と目標値の60%を上回っており、授業で学んだことを確実に理解することはできている。新たな問題に対して学んだことを活用していくよう指導していきたい。

学習意欲については、関心・意欲を問う問題において平均点が69.8%と高い。さらに、授業で活発に意見交流、発表、班（グループ）活動ができている。

2 研究主題に迫るための手立て

A 身近な課題としての提示

- ① 地域の方々と活動したり、ゲストティーチャーからアドバイスを受けたりしながら、課題意識をもたせる。
- ② 呉市が作成・配布している「防災マップ」を活用することで、身近な課題としてとらえることができるようにする。（家庭での話題として取り組むことができるようにする。）

B 思考力・判断力・表現力が深まる学習の工夫

- ① 発問の工夫により，思考を深め，よりよい判断をし，適切に表現できる発問を工夫する。
- ② グループ学習により，思考力・判断力・表現力を深めさせる。

C 次年度へつながる活動や振り返りの工夫

- ① 小学校6年間の活動(小中一貫教育)を基本に，3年間を見通した活動を仕組んでいく。
- ② 小單元ごとに振り返りをさせ，目標を達成できたことを確認させる。

3 単元の目標

◆単元の目標◆

- ・ 災害発生時の校区内の危険箇所について調べ，地域防災の課題を確認する。
- ・ 地域防災の課題の解決にむけて自分たちがどのような形で貢献できるかを考え実践していく。
- ・ 地域防災への意識を高め，地域と協働して地域防災に貢献していく意欲と態度を育てる。

4 本単元で育てようとする資質・能力

- (1) 災害発生時の校区内の危険箇所について学び合いながら調査し，地域防災の課題について自ら学ぼうとしている。 [知識・技能]
- (2) 学んだことをもとに，様々な視点から考察し目的や相手に応じて，根拠を明確にしなが，適切に表現している。 [思考力・判断力・表現力]
- (3) 目的に応じて色々な人や仲間の考えを聞いたり，自分の考えを出したりすることで，地域の防災に関する課題解決に貢献しようとしている。 [協働的な態度]

5 本単元の評価規準

育てようとする資質・能力		評価規準
知識・技能	分かる・できる	<ul style="list-style-type: none">・ これまで起こった，また，起こるであろうと思われる地域の災害の状況などについて知ろうとしている。・ 防災について地域の方々の思いや願いに気付いている。・ 多くの情報を取捨選択し，整理して新聞などにまとめることができる。
思考力・判断力・表現力	考える・決める・伝える	<ul style="list-style-type: none">・ 防災について課題をもち，取組内容をしっかりと考え，ワークシートなどにまとめている。・ 取組内容を自分たちで判断し仲間と一緒に決めることができている。・ 新聞や発表原稿が相手に伝わりやすい内容になっている。
協働的な態度	貢献する	<ul style="list-style-type: none">・ 意欲的に活動し，自分で考えるだけでなく他の意見を尊重している。・ 地域防災に貢献しようとしている。

6 指導計画 (全36時間)

次	月	主な学習活動	時数	探究の過程	評価規準 (評価方法)	教科等との 関連
1	8	<p>新聞などの資料から、災害発生時の様子や被害の状況を知る。</p> <p>○昨年の豪雨災害は大変だったね。 ○うちは1週間も断水して水の確保で苦労したよ。 ○この辺りは坂道も多くこれまでも色々な災害で被害が出たらしいよ。 ○これまでに災害でどんな被害があったのかを調べたいね。</p>	2	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集(1)</p> <p>情報の収集</p>	<p>■西日本豪雨災害での体験をふまえて地域の様子に目を向けている。 (行動観察)</p>	社会 理科 道徳
					<p>地域の災害の様子や歴史に関心をもとう</p>	
	8	<p>校区内の防災マップを作成して、地形図から危険箇所を読み取る方法を学習する。</p> <p>○昨年の豪雨災害は地域に大きな影響を及ぼしたんだね。 ○防災マップを使って、この地域で災害によってどんな被害があったのかを調べなければいけないね。 ○地域の人々に呼びかけることができるように学習しなければいけないね。</p> <p>自分たちの暮らしている地域の地形図を読み取って危険な箇所を確認する。</p> <p>○こうして地形図を見るだけで、急傾斜地が多いのがよく分かるね。 ○川が流れているから危険だね。 ○去年の豪雨災害は辰川の水がもう少しであられるくらいまで増水していたよね。 ○OGTのおかげで、小学校のときに安全マップを作ったときより、更に詳しく地域の危険箇所を確認することができたね。</p>	4	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集(2)</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p>	<p>■小学校のときに防災という視点も含めた「安全マップ」づくりに取り組んでいることを発展させて作成している。 (行動観察・発言の分析)</p>	社会
					<p>呉市消防局から専門家をお招きして地形図の読み取り方を学習しよう。</p> <p>■呉市消防局<GT>の説明をよく聞き、ハザードマップから危険箇所を正しく読み取ることができる。 〔班ごとに大きな地形図を読み取りながら色マジックを使って危険な箇所を確認していく。〕 (行動観察・成果物)</p>	
				<p>情報の収集(3)</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p>		

2	8	<p>地域防災に役立つ防災新聞を作成し、地域に配布しよう。</p> <p>○地域の防災を進めていく上で自分たちにはできないことはないだろうか。 ○地域の危険箇所をまとめた防災マップを作ろう。 ○でも、それは小学校のときにやったから、地域防災に役立つような新聞を作成してはどうだろう。 ○危険な箇所がある地域ごとにまとめるといいんじゃないかな。 ○完成した新聞を地域に配布するというのはどうだろう。</p> <p>防災という視点から、校区内を実際に調査して新聞にまとめよう。完成した新聞を地域に配布しよう。</p>	1	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集 整理・分析 まとめ・表現</p> <p>■小学校から積み上げてきた「マップ」づくりを参考にして更に発展させて何ができるかを考え、「新聞づくり」という新たな活動に協働して取り組んでいる。 (行動観察)</p>	社会 国語
3	8	<p>実際に現地で危険箇所の調査活動を行おう。</p> <p>○これだけ危険な箇所があるから、分担して調査しよう。一箇所を1つの班で調べるのではなく、複数の班で調べた方が色々な発見があると思うよ。 ○どんな新聞にするのかもあらかじめ考えて、ある程度のレイアウトを計画して必要な写真の枚数も確認しておこう。 ○地域の自治会の人たちと一緒に回るのはどうだろう。 ○実際に生活している人のアドバイスは貴重だから、依頼しよう。</p>	5	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集(4)</p> <p>情報の収集 整理・分析</p> <p>■各班のリーダーを中心に、調査活動の計画を立案し、地域の方々の協力のもと、実際にフィールドワークを行うことができる。 (行動観察)</p>	社会
3	8 9	<p>フィールドワークで調査した内容を「防災新聞」にまとめていく。</p> <p>○班ごとに調査した内容をわかりやすく新聞にまとめていこう。 ○いざという時どうしたらいいのかもまとめておきたいね。 ○調べた内容を全校の生徒に報告するのはどうだろう。 ○文化発表会なら生徒だけでなく保護者や地域の人たちにも報告できるよ。</p> <p>調査したことを新聞にまとめ、完成した新聞を地域に配布しよう。作成した新聞を元にして、文化発表会で発表しよう。</p>	12	<p>まとめ・表現(1)</p> <p>整理・分析 まとめ・表現</p> <p>■「新聞づくり→地域への新聞の配布」という活動について、生徒たちが中心になって主体的に取り組んでいる。 (行動観察・成果物)</p>	国語 社会

	10	<p>これまで学習した内容をまとめ、文化発表会で発表する。</p> <p>○文化発表会で調べた内容を全校の生徒に分かりやすく報告したいね。 ○保護者や地域の人たち(協力してくれた方々)にも報告できるね。 ○校内や地域だけでなく、もっと広く発信していきたいね。 ○どのような方法があるか考えていこうね。</p>	10	<p>まとめ・表現(2)</p> <p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>■「新聞づくり→地域への新聞の配布→文化発表会での発表」という活動について、生徒たちが中心になって主体的に取り組んでいる。 (行動観察・プレゼンテーション)</p>	国語 技術
4	11	<p>これまで学習したことを総合防災訓練に生かす。</p> <p>○これまでに学んだことは総合防災訓練に生かすことができるね。 ○今年の7年生は、保育園児との活動だよ、喜んで参加してもらえる方法を考えなくてはいけないね。 ○3学期に実施する「絵本会」に役立てることができると思うよ。</p>	2	<p>まとめ・表現(3)</p> <p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p>	<p>■これまでの防災に関する学習を総合防災訓練に、生徒たちが生かしている。〔園児たちを積極的にリードして防災訓練に取り組んでいる。〕 (行動観察)</p>	国語 (家庭)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- 昨年の西日本豪雨災害での体験をふまえて地域の様子を振り返り、これから起こるであろうと思われる地域の防災について知ろうとしている。(知識・技能)
- 防災について課題をもち、取組内容をしっかりと考え、班内で意見をまとめている。
(思考力・判断力・表現力)

(2) 学習の展開 (本時 1/36)

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 《評価方法》
課題 発見 (10)	1 これからの学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事で学習課題を確実に把握させる。 	
	2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を活用して西日本豪雨災害の状況を振り返り、地域の防災について理解させる。 	
	<p>天風録〔中国新聞〕より キーワード：大雨・洪水警戒レベルの5段階区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「5段階のうちレベル3が発令、レベル4が発令されたら…、避難を終える。」 ○ 「豪雨の恐ろしさは頭では分かっている。」 ○ 「レベル4です。大切な命すべて避難完了しましたか。」などに線を引かせる。 		
	<p>めあて 豪雨災害の状況を振り返り、地域の防災について理解する。</p>		

自力・集団解決(10)	3 6月7日に広島県内に出された、レベル4に対する、住民の行動について自分・ペアで考える。	<ul style="list-style-type: none"> 大雨・洪水警戒レベルについて知るとともに、避難指示や勧告が出たときに、住民がどのような行動をとるのか(とったのか)考えさせる。 	
	課題A 避難した住民は何%だったのだろう。 <input type="radio"/> ほぼ100%, 大多数の住民が避難したと思う。 <input type="radio"/> 住民の約半数が避難したと思う。 <input type="radio"/> 避難した住民は少なかったかと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動をとった住民が6.1%だったことを考えさせる 	
	課題B 6.1%という割合をどう思うか、なぜ少数だったのか話し合おう。 <input type="radio"/> 少ないと思う、非常に少ないと思う。 <input type="radio"/> 避難しなくても大丈夫だと思った。自分には関係がないと思った。 <input type="radio"/> 2階など家の中で避難したのではないかと思う。〔避難訓練から〕		
集団解決(15)	4 班の形になり、2つの課題について分かったことを説明し合い、自分たちや自分たちが住む地域に結びつけて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 補助資料として「防災重点ため池1110カ所(中国新聞)」を活用する。 <p style="text-align: center;">「学び合い」の種</p> <p>全員が発言(説明)することで、学び合いに意欲的に参加させる。 警戒レベル4が発令された場合、自分たちや自分たちが住む地域の防災に結びつけて考えさせる。</p>	【知・思】 話し合ったことを班内で説明し、まとめることができる。《発言・行動観察》。
現・活用(10) 集団解決, 表	5 身近な地域でどのような災害が起こったか、起こる可能性があるか考え発表する。	<ul style="list-style-type: none"> これから学習するための課題を発見し、解決しようとする態度を身に付けさせる。 地域防災への取組のスタートとして位置づける。 	【思・判・表】 防災について課題をもち、班内で意見をまとめ、発表している。
まとめ(5)	6 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の取組の内容を知る。 消防局の方々(GT)との学習やフィールドワークなど体験学習を中心に行うことを周知する。 	

8 育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

(1) 生徒の変容

① 意識調査アンケートから

小学校から防災に関する学習を積み重ねることにより、本中学校区の小中一貫教育の育成すべき資質・能力である、「思考力・判断力・表現力、協働的な態度」は生徒の意識調査アンケー

トにおいて、次の表のように着実に向上している。

	思考力・判断力	表現力	協働的な態度
7月	2. 9 1	3. 0 2	3. 1 6
1 2月	2. 9 6	3. 0 9	3. 3 7

② 生徒の記述・感想から

防災学習を行うことにより、生命の尊さを題材にした特別の教科道徳では、道徳的価値観の向上が見られた。

特別の教科 道徳
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容：資料「命を本気で守る」〔自作教材，D-19 生命の尊さ〕 ゲストティーチャーの葛原さん〔呉市消防局〕の救助体験をもとに、助ける側と助けられる側の立場に立って、「なぜ命を守ろうとするのか」を考えることができる資料である。 葛原さんやフィールドワークで案内して下さった地域の方たちが、どんな思いで私たちに協力して下さるのかも考えることができる資料である。
<ul style="list-style-type: none"> 今まで、助ける側の人たちの気持ちを考えたことはなかったけれど、今日の授業で消防士の葛原さんの思いを知り、改めて助ける側の気持ちを知りました。その人やその家族はもちろん、助けられなかった人のことを考えると、本当に胸が痛みました。一度しかもらえない人生（命）は本当に大切だということをもっと多くの人と話して共有したいです。 改めて「死ぬ」と軽々しく口に出すのはおかしいことだと思った。誰かが誰かを思い、行動に移すことで、誰かが助かるかもしれない。その行動に移した人が葛原さんや地域の方であり、そういう思いは人に伝え、広めなければならないと思う。一人一人が全員の命のことを考えて動くことで、人が助かるのだと思う。自分も自分と周りの命を大事にしたいと思った。

(2) 成果

- 総合的な学習の時間を軸に教科横断的な授業づくりができた。
 国語 社会 理科 技術 道徳 (家庭) 等で身に付けた様々な能力の活用
- 課題を発見、解決させる学習によって、思考力・判断力・表現力が高まっている。
 独創的な成果物〈防災新聞・防災マップ・発表資料〉
- 小学校から位置付いている防災学習を、9年間を見通した取組にすることができた。

(3) 課題

- 課題発見・解決学習を目指しているが、初期段階では課題を教師が設定している。生徒の自発的な探求心に基づいて設定させなければならない。
- 発表等を伴う関係で成果物を作成することに重点を置きがちな生徒も見られた。学習が生徒自らのものとなるようガイダンスをより丁寧に行うなど、課題設定の段階から学習の目的を明確化することが大切である。